

問題【社会】

テーマは平安時代。次の問いに答えましょう。

- 1 794年に平安京に遷都したのは誰ですか？
- 2 「この世をば わが世とぞ思う 望月の欠けたる
ことも無しと思えば」。
この歌を詠んだ人は誰ですか？
- 3 1086年に院政を行った上皇は誰ですか？
- 4 1167年に太政大臣になった武士は誰ですか？

豆知識 雑学コラム

平安時代はこの4人！

高校受験も近づいてきました。歴史の問題は、全体の3分の1は出ます。ただ、教科書では平安時代は二つの章に分かれているためか、つながりに不安がある子もいるようです。そこであらためて平安時代の基本を押さえてみましょう。

平安時代のスタートは、桓武天皇が平安京に遷都したことから始まります。794年の覚え方は「泣くよ、桓ちゃん、平安京！」ですね。ウグイスを泣かすこともあります。ここは覚えるために桓ちゃんを泣かしておきましょう。平安京に遷都できて、感動の涙を流すイメージで！

「この世をば～」の歌で有名なのが、藤原道長です。11世紀の前半に摂関政治を行いました。朝廷の高い地位を独占し、かなりのお給料をもらっていました。また、荘園もたくさん持っていたので、そこからの収入もかなりありました。つまり、藤原氏は日本で一番のお金持ちだったわけです。

院政といえば、白河上皇ですね。摂政や関白の力を抑えて政治を行いました。新しい荘園を認める強い力を持っていたので、たくさんの荘園が上皇に寄進されました。年号は「白河上皇 入れ歯6本！」（1086年）で覚えましょう（無理やりだけど、勢いで覚えてね）。

武士として初めて太政大臣になったのは、平清盛でした。清盛の一族も高い地位につき、各地の公領を支配し、多くの荘園も平氏のもとに集まりました。平清盛も、娘を天皇のきさきにして権力を強めました。覚え方は「平清盛はイイ胸毛だじょー！」（1167年 太政大臣）ですね。

こうしてみると、荘園＝お金（土地＝お金）という面も見えて来て面白いですね。鎌倉時代に武士が土地にこだわったのも分かります。このように歴史には流れが何本もあります。勉強すると、そういったことも見えてきて面白いですよ。

【解答】

- 1 桓武天皇 2 藤原道長 3 白河上皇 4 平清盛